

〈目的〉 人体の腰部形態の特徴を現わす指標として、幅径と厚径との示数值(偏平度)および胴囲と腰囲間の周径差の大小が考えられ、これらがスカート着装時のフレアー効果に影響を及ぼすものと思われる。前報^{*}では、腰部形態をモデル的に取り扱い偏平度とフレアー効果との関係について検討を行った。本報では、周径差の形態的特徴を円すい台モデルに仮定し、フレアー効果との関係について考察を試みた。

〈方法〉 高さ $h=40\text{cm}$ 、上底面半径 $a=10\text{cm}$ に対して下底面半径 b の比($a:b=1:1\sim 1:2.5$)の異なる円すい台を用いた。試料布は、厚さ、剛軟度の異なる平織物10種を選び、中心をくりぬいたサーキュラー布(くりぬき部半径 10cm 、傘下長 $l=30\text{cm}$)を作製した。各試料布を円すい台にセットし、フレアー形成時のすそ形状と正面シルエットを撮影した。フレアー効果は、ノードの平均波高、波高間角度、変動率、ノード数、すそ角度、波高間距離等の項目を測定し検討した。

〈結果〉 $a:b=1:1\sim 1:2.5$ の組み合わせの中で、 b が大なる程波高は増加し、同一試料においてもノード数の増加が認められた。波高変動率は、 b が大なる程減少傾向を示す。また、すそ角度は波高と負の相関が高い項目であり、 b が大なる程小さく、すそ広がりを示す。以上、円すい台の $a:b$ が異なることにより、上記測定項目に変化が認められたことから、腰部形態のぐん胴の程度によって、フレアー効果に差異が現れるものと推察される。